



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

CD79 α ウサギモノクローナル抗体(SP18)

(動物種：ウサギ)

包装：50テスト(6mL)

Code：413631

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 特異性および抗原分布：ヒトB細胞抗原受容体複合体(B cell receptor complex、BCR)を形成するCD79 α (mb-1 蛋白)と特異的に反応する。preB細胞の未熟な段階から一部の形質細胞の細胞質に反応する。preB細胞性の急性白血病やB細胞リンパ腫、いくつかの骨髄腫とも反応する。
- クローン名：SP18
- 抗体のサブクラス：ウサギ IgG
- 免疫原：ヒトCD79 α タンパクのN-末端領域の合成ペプチド
- 製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・CD79 α ウサギモノクローナル抗体(SP18)(動物種：ウサギ)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に6mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒトB細胞の染色。

*3. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学染色および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

パラフィン包埋切片の場合、前処理(抗原賦活化)として10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面の操作手順参照)。

スライド上の組織切片が完全に覆われるように第一抗体を2滴(100 μ L)滴下し、検体に対して常温(15-25 $^{\circ}$ C)で30分~1時間インキュベートする。*

この反応時間は、ヒストファイン シンプルステインMAX-PO(R)を使用する場合の目安であり、他のキットを使用する場合は、研究者自身が至適反応時間を調べる必要がある。

■参考：組織の固定状況等により10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理の代わりにヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code：415201またはCode：415211)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある(裏面の■参考参照)。

4. 貯法

2-8 $^{\circ}$ C保存。

5. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

■研究用としてのみ使用すること。

免疫染色における操作手順および前処理(抗原賦活化)*

■ 操作手順

[切片の準備]

1. 50°Cで十分に湯伸ばしした切片(3-4 μ m厚)をシランなどのコーティングスライド上に貼り付け、37°Cの恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化): オートクレーブ処理
 - ① 緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ② バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③ 120°C、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④ 圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤ バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
- ⑥ スライドを緩衝液から取り出し、PBSでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ビンを使用する)。

[染色手順] <ヒストファイン シンプルステインMAX-PO(R)使用の場合>

4. 内因性ペルオキシダーゼの除去 10~15分間/常温 → PBS洗浄
5. 第一抗体の添加・反応 30分~1時間/常温 → PBS洗浄*
6. シンプルステインMAX-PO(R)の添加・反応 30分間/常温 → PBS洗浄
7. 基質溶液の添加・反応 DAB発色 → 水洗
8. 対比染色 核染(ヘマトキシリン) → 封入 → 乾燥 → 検鏡

■ 注意

- ・ 「PBS洗浄」はPBSに浸し、5分間ずつ3回放置する。
- ・ 4のプロセスは3の前に行ってもよい。
- ・ ヒストファインSABキットを使用する場合は上記1~4まで行いSABキットの操作方法に従って染色を行う。
- ・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液 9mL+B液 41mL+精製水 450mL (用時調製)

A液: 0.1M クエン酸水溶液: 常温で保存可能

クエン酸一水和物 ($C_6H_8O_7 \cdot H_2O$) 2.1g/精製水 100mL

B液: 0.1M クエン酸ナトリウム水溶液: 常温で保存可能

クエン酸三ナトリウム二水和物 ($C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$) 14.7g/精製水 500mL

ここから必要な時に調製する。

■ 参考: ヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code: 415201またはCode: 415211)、オートクレーブ処理を用いる場合(おもて面の■参考参照)

- ・ 抗原賦活化液pH9の作り方

・ Code: 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。

・ Code: 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。